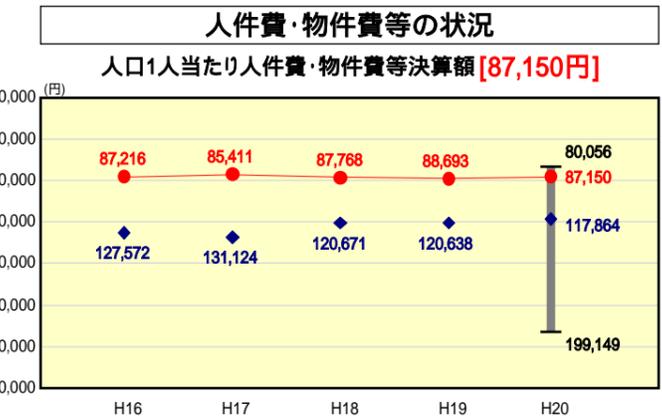
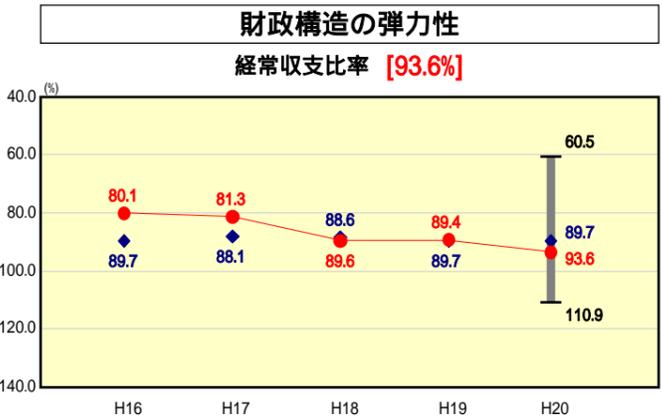
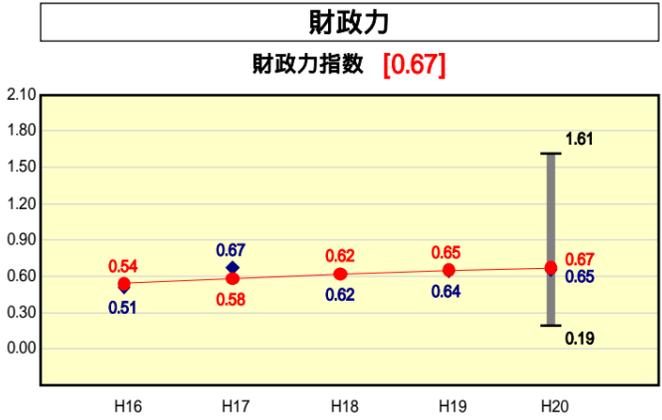


# 市町村財政比較分析表(平成20年度普通会計決算)



人件費、物件費及び維持補修費の合計である。ただし、人件費には事業費支弁人件費を含み、退職金は含まない。

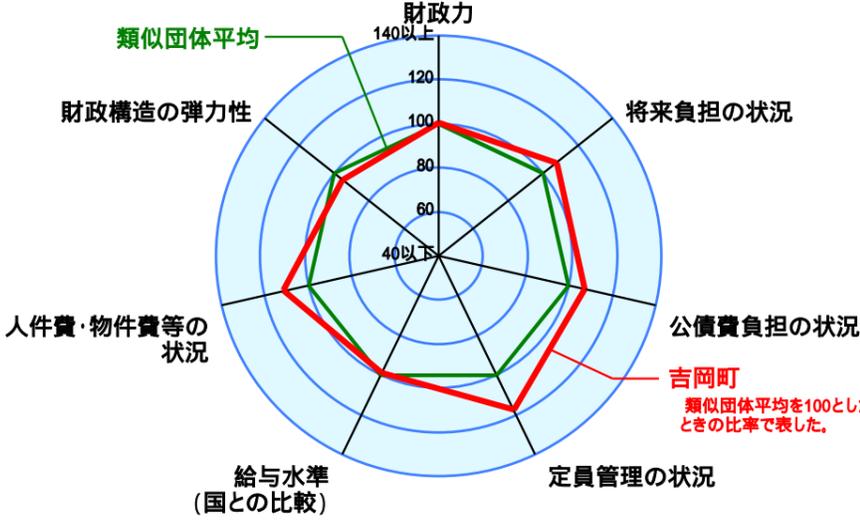
**分析欄**

【財政力指数】前年度と比較して0.02ポイント増となっており、平成13年度から8年連続で伸びている。これは、吉岡町が前橋市、高崎市への通勤通学に便利な位置にあることから人口が増加していることや、前橋市と吉岡町をつなぐ県道前橋伊香保線(通称吉岡バイパス)沿線に大型商業施設等が進出したことで開発が進み、町税収入が順調に増加していることが大きな要因となっている。

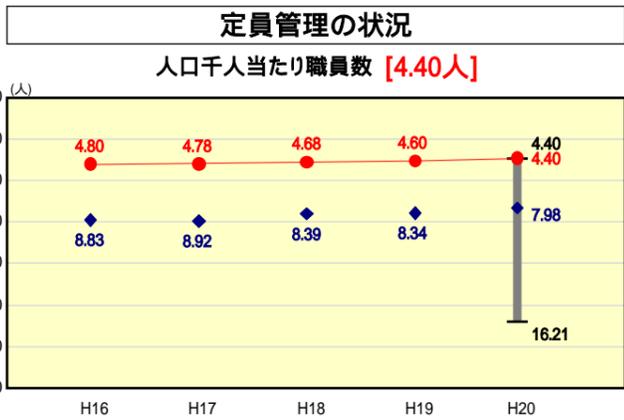
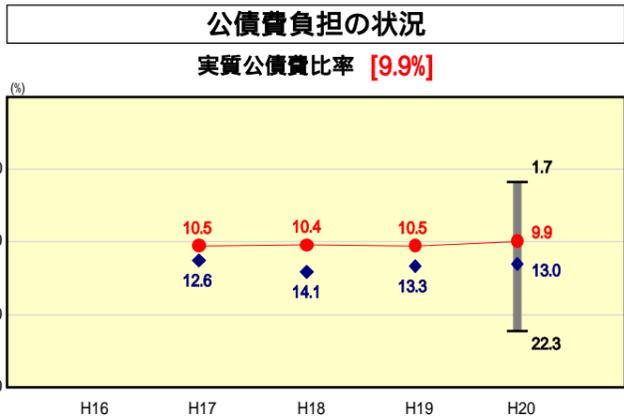
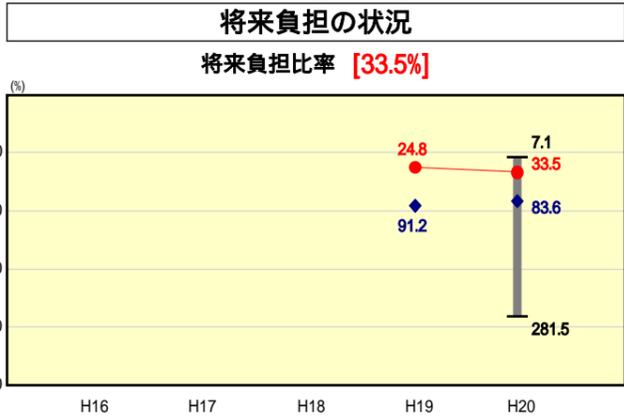
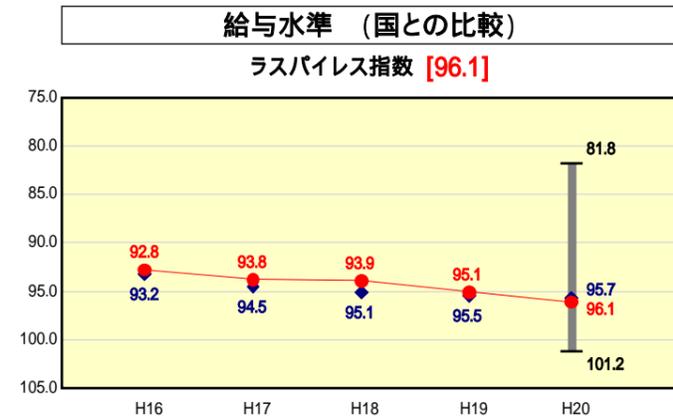
【経常収支比率】前年度と比較して4.2ポイントの増となり、類似団体平均を上回っている。これは、人件費の比率は、前年度と比較して1.6ポイント減少したものの国民健康保険事業特別会計への繰出金が急増し、繰出金全体で5.2ポイント増となったことが大きな要因となっている。今後、行財政改革をより一層推進し、義務的経費等経常経費の削減に努める。

【人口1人当たり人件費・物件費等決算額】人件費、物件費及び維持補修費の合計額の人口1人当たりの金額が、類似団体平均を大きく下回っている主な要因は、人件費が低く抑えられていることにある。今後も、住民サービスを低下させることなく、人件費や物件費の抑制に努める。

人口	19,090	人(H21.3.31現在)
面積	20.50	km <sup>2</sup>
標準財政規模	3,694,830	千円
歳入総額	5,636,314	千円
歳出総額	5,465,999	千円
実質収支	134,638	千円



類似団体とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類した結果、当該団体と同じグループに属する団体を言う。  
 平成21年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく実質公債費比率及び将来負担比率を算出していない団体については、グラフを表記せず、レーダーチャートを破線としている。  
 充当可能財源等が将来負担額を上回っている団体については、将来負担比率のグラフを表記せず、レーダーチャートを破線としている。



【将来負担比率】現在のところ、将来負担比率は類似団体平均を下回っているが、21年度にはまちづくり交付金事業で463百万円の地方債の発行を予定しており、また、22年度についても吉岡中体育館改築事業や吉岡中学校増築事業等で370百万円の地方債の発行が見込まれ、今後、将来負担比率が上昇することが予想される。このことから、他事業に係る地方債発行を抑制し比率の減少に努める。

【実質公債費比率】過去から適切な地方債発行に努めていたため、前年度と比較して0.6ポイント減少し、類似団体平均よりもかなり下回っている。しかし、将来負担比率と同様、実質公債費比率も上昇することが予想されるので、地方債の発行を抑制し引き続き水準を抑える。

【人口1,000人当たり職員数】類似団体内で第1位と最も少ない職員数であり、職員1人当たりの仕事量が多く負担も大きい状況となっているが、今後ともより一層住民サービスが図られるよう努めていく。